

1997年度年報

セント・ルカ産婦人科



1997.6.1~1998.5.31

St.Luke

目次

病院概要	1
巻頭言にかえて	2
外来・入院数	3
妊娠数	5
この一年をふりかえって	6
学会発表一覧	13
論文一覧	14
著者（共著）一覧	14
翻訳一覧	14
主催講演会一覧	14
学会・講演参加一覧	15
見学・院内講習会一覧	16
講演一覧	16
不妊カウンセラー活動一覧	17
行事一覧	18
スタッフ紹介	20

病院概要

名称 医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科

開設年月日 1992年6月3日

住所 〒870-0947 大分市津守富岡5組
Tel. 097-568-6060
Fax. 097-568-6299
E-mail sentluke@fat.coara.or.jp
<http://www.coara.or.jp/~sentluke>

許可病床数 11床

職員数 総数 31名
常勤医 1名 情報処理室 2名
研究室 4名 事務部 1名
検査室 3名 調理師 2名
看護婦 8名 栄養師 1名
准看護婦 5名

診療時間 月、水、金： 9:00～12:00
17:00～19:00（要予約）
火、木、土： 9:00～12:00

最近、非配偶者間の生殖補助技術（ART）がさかんに議論されるようになった。それについて基本的には私は反対である。

まず、医療は、その患者さんの機能が悪いところを治療し、能力を高めてあげて目的を達するべきで、足りないからといってその部品を隣のシャーレからもってきて代用するものではない。しかも、生殖医療であるなら、その脈々と続いて来た祖先からの血筋（遺伝子）に関わりがでてくる。外国とは違って日本には特有の考えがあるため、非配偶者間のARTで産まれてきた子供も、またそのまわりの者も、この結果に対しては、欧米でのとらえ方の感覚と異なっていることは自明である。最近ではアメリカの小学校の児童の家庭の半分が離婚、または再婚家庭であるという。それが一般的な社会である欧米と日本の今の社会とでは当然、家族の意味も違っているだろう。そのような環境に生まれてきた場合、その子供の知る権利、生きる権利、遺伝学的につながった両親と暮らす権利などの価値観は欧米と日本では異なっており、日本においてそれらをだれが保障できよう。また、だれがその事実を伝えるのか。子供とはいえ、立派な人間のひとりであり、その意味から、両親と同じ次元の「人格」である。両親の付属物、所有物ではないのである。「子供をもつ権利」というが、生まれる前に何も選択することのできない子供の人権がもっとも重要である。

また、現代医学は1年前には不可能であったことが今日は可能になるほど進歩が早い。しかし、その進歩もその応用の道をよく考えねばならない。ダイナマイトや核科学がその道を誤ったとき人を傷つけ、正しい道にあるとき人の暮らしを豊かにしてきた。医学においても同様であり、生殖医学もその中のひとつと考えられる。医学の進歩のおかげで何でもできるからなんでもしていいわけではない。我々はその道の「専門家」として慎重に行動しなければならない。

次に不妊症の患者さんは我々が思いもつかないほど苦勞をしている。「嫁して3年子無きは去る」に見られるように子供のいない女性はあらゆる場面で差別を受けてきた。いま我々は子供がいなくても堂々と生きてゆける社会をも作らねばならない。

大分県は車椅子マラソンで有名になったが、あの中村裕先生が、障害者といえども立派に生きてゆける社会を夢見て「太陽の家」を設立し、さらに障害者といえどもフルマラソンを完走し、健常者にも負けないことを示す場を作ってくれた。だから障害者は健常者と一部が異っているが、まったく同じ社会人として仕事をし、堂々と生きているのである。そのように子供のいない夫婦も一部が他の夫婦と異なっているだけでまったく同じであると認識される世の中でなければならない。

非配偶者間のARTでしか子供が望めない場合、家族がそれを望み、自分は望まないなどというむづかしい場合も考えられる。また非配偶者間ARTまでは行ないたくないとか、さらに、そこまで行なっても子供が望めない場合もあるはずで、その時はその夫婦を追い詰めてしまうことにならないか。

毎日、不妊症の診療を行ない、その悩みを聞き、不妊症の実態をよく知っている我々が、その件についてはリードしなければならない点と思う。

外来・入院数

(1997. 6. 1～1998. 5.31)

	入院	外来
6月	124	2,037
7月	123	2,136
8月	121	2,199
9月	100	1,846
10月	151	2,123
11月	126	1,766
12月	106	1,679
1月	119	1,604
2月	102	1,688
3月	134	1,883
4月	134	1,939
5月	86	1,596
合計	1,426	22,496

入院数

(1997. 6. 1~1998. 5. 31)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	計
手術入院													
腹腔鏡手術	13	12	13	6	12	9	10	15	13	18	11	11	143
子宮内容除去術（流産のため）	2	2	1	2	2	9	4	3	1	4	2	2	34
子宮外妊娠（開腹手術）	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
子宮外妊娠（腹腔鏡下手術）	1	1	0	0	3	2	0	0	1	1	1	0	10
子宮筋腫核出術	3	1	1	0	1	2	0	2	1	1	1	2	15
子宮単純全摘出術	0	1	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	6
開腹手術（卵巣）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
卵巣のう腫穿刺	0	2	0	2	0	1	3	3	0	1	4	0	16
その他	1	3	2	0	1	1	2	2	1	0	1	0	14
合計	20	22	17	12	21	24	20	25	19	25	21	16	242
安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	1	3	3	4	2	7	1	0	2	1	4	2	30
切迫流産安静	1	1	1	6	1	1	2	0	0	1	4	2	20
妊娠悪阻	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	2	1	1	1	0	2	2	0	9
合計	2	4	4	10	5	9	4	2	2	4	10	4	60
体外受精入院													
採卵	56	50	46	41	62	49	39	48	44	54	57	31	577
GIFT,ZIFT,TET	2	0	2	2	1	1	1	3	1	5	5	3	26
胚移植	35	36	34	28	57	37	35	36	32	42	36	16	424
凍結胚移植	9	11	18	7	5	6	7	5	4	4	5	16	97
合計	102	97	100	78	125	93	82	92	81	105	103	66	1124
入院総計	124	123	121	100	151	126	106	119	102	134	134	86	1426

妊娠数 (1992. 6. 3~1998. 5.31)

		92~'93	93~'94	94~'95	95~'96	96~'97	97~'98	合計
体外受精 胚移植	採卵周期	123	254	281	259	299	328	1544
	移植周期	92	184	217	228	262	254	1237
	妊娠周期	10(10.9%)	36(19.6%)	59(27.2%)	55(24.1%)	55(21.0%)	52(20.5%)	267(21.6%)
体外受精 卵管内移植	採卵周期	0	9	6	6	3	0	24
	移植周期	0	7	6	5	3	0	21
	妊娠周期	0(0%)	1(14.3%)	1(16.7%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(9.5%)
顕微授精 胚移植	採卵周期	0	78	217	253	233	218	999
	移植周期	0	54	173	228	210	184	849
	妊娠周期	0(0%)	5(9.3%)	20(11.6%)	44(19.3%)	31(14.8%)	38(20.7%)	138(16.3%)
顕微授精 卵管内移植	採卵周期	0	1	6	3	0	4	14
	移植周期	0	1	6	3	0	4	14
	妊娠周期	0(0%)	0(0%)	1(16.7%)	2(66.7%)	0(0%)	1(25.0%)	4(28.6%)
GIFT	採卵周期	24	37	22	13	10	16	122
	移植周期	24	36	22	13	10	16	121
	妊娠周期	5(20.3%)	11(30.6%)	7(31.8%)	4(30.8%)	2(20%)	5(31.3%)	34(28.1%)
ZIFT	採卵周期	0	0	0	8	8	6	22
	移植周期	0	0	0	8	8	6	22
	妊娠周期	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(12.5%)	1(12.5%)	1(16.7%)	3(13.6%)
凍結融解 胚移植	採卵周期	1	5	8	35	56	101	206
	移植周期	1	5	8	34	56	99	203
	妊娠周期	0(0%)	0(0%)	1(12.5%)	1(2.9%)	10(17.9%)	15(15.2%)	27(13.3%)
凍結融解 卵管内移植	採卵周期	0	0	0	0	0	2	2
	移植周期	0	0	0	0	0	2	2
	妊娠周期	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(50%)	1(50%)
小計	採卵周期	148	384	540	577	609	675	2933
	移植周期	117	287	432	519	549	565	2469
	妊娠周期	15(12.8%)	53(18.5%)	89(20.6%)	107(20.6%)	99(18.0%)	113(20.0%)	476(19.3%)

ART以外の妊娠数	164	230	202	246	188	173	1203
妊娠総数	179	283	291	353	287	286	1679

この1年をふりかえって

宇津宮隆史

昨年、開院5周年を記念して我々の仕事をまとめた冊子を発行したが、またそれから1年が経過した。早いものである。この1年間、300人以上の妊娠が得られた。その中でも、とくに22回の体外受精（IVF）を行なった結果やっと妊娠し、12月に元気な赤ちゃんが生まれたことや、また24回のIVFでやっと妊娠して経過順調であること、また、一回目のICSIでダウン症であったにもかかわらず、また次の妊娠も当院において希望してくれ、今度は胎内診断で健常であったことなど、本当に心に残る経験が得られた。しかし、これらのような妊娠困難例はまだ多い。それを考えるとき、我々のなさねばならない大きな責務が厳然として目の前に横たわっていることを感じる。

この一年の間、さまざまな試みを行なってきた。とくに2年以上前から取り組んでいるIVFを中心とした生殖補助技術（ART）の保険適用や患者さんへのケアについては、すでに5編の論文となった。昨年は東京でも保険適用についていくつかの進展が見られたようだが、その後、ストップしているようである。しかし500億円の予算でARTの保険適用が可能なのである。あの無責任極まりない住専の処理に30兆円も費やそうとしているなかで、いかに今、医療側の政治力が弱いかを思い知っているこのごろである。この件については我々は不妊診療の専門家としてあらゆる機会をとらえて社会に訴えていかねばならない。

また、昨年からは患者さんへ対するアプローチを不妊カウンセラー、IVFコーディネーターの立場からとらえる試みを行なってきた。特にアメリカ不妊学会のパンフレットを和訳し、さらにカウンセリングの勉強会、IVF成功者と現在治療中の患者さんの情報交換の場（ガーネット・サークル）などを設けた。そこでまったく予想しなかった事実が得られた。それは、先端医療を行なっている我々は、その成果の半分は患者さんにささえられていたという事実気がついたことである。あの患者さん同志の話し合いを聞いているうちに、まだゴールの見えない不妊治療をするにあたって、本当に真摯に夫婦で自分たちの将来を話し合い、決心して来院している姿が見えたのである。そのとき、最先端医療を行なっていると自負していた自分の傲慢さに気がついたのである。このことは今後、不妊カウンセリング、コーディネートを行なうにあたって心すべき点と考える。

診療、研究面においては、腹腔鏡手術が1000例を超え、不妊患者さんの3分の1が検査を受けたことになる。その結果、卵管采の形状がその後の妊娠率に關与することがわかった（5月13日ヨーロッパ産婦人科学会で発表）。妊娠困難例においてAssisted Hatching(AHA)を導入し、成功例が数例ではあるが得られたこと（これについては10月7日に世界不妊学会サンフランシスコで発表する予定）、遺伝子学的アプローチのため、FISHを開始したこと、3PN胚を中心とした培養実験や、精子のStrict Criteriaを実用化させたこと、さらに、ARTを行なって、妊娠していないにもかかわらず現在治療を中止している患者さんの気持ちをアンケート方式で検討したこと、不妊症患者特有の心理的負担をコーネル・メディカル・インデックス(CMI)で検討したことなど、ささやかながらではあるが前進してきたと思う。

現在、本病院の後に新研究棟を建設中である。延べ、600㎡、約180坪で、一階は基礎研究室、2階はクリーン・ルーム、3階は多目的ホールで、とくにクリーン・ルームは降塵率5000以下の高度無菌室に匹敵する設備を計画している。これが完成すればおそらくどこにも負けないようなクリーンな環境でARTが行なえるであろうと期待している。

また、我々は患者さんのデータを整理し、保管し、必要に応じて統計処理し、学会に発表することが多い。そこで今まではクリニベース（宇佐・エンゼルクリニック・是永迪夫先生開発ソフト）をもとに、セント・ルカ用に改良してさまざまなデータを処理してきた。しかし、やはりもともと一般産婦人科向けのものであったので限界があった。そこで今回、Windows 95に対応した不妊症専門のソフトを開発している。これはデータをいかに人手を少なく取り込むことができるか、また取り込んだデータをいかに簡単に取り出し、統計処理ができるか、そしていかに簡単にスライドにできるか、など、要するに今までの我々の悩みを一気に解決してくれるソフトをめざすものである。夏にはほぼ完成するはずである。

最近、突然のようにあの諏訪マタニティークリニックの根津八紘先生が非配偶者間のIVFを発表して世間の注目の的となった。この件については新聞のコピーをもとに全職員で2回にわたって意見交換会を行ない、我々の考えを深く掘り下げる試みを行なった。我々は基本的に非配偶者間の治療には反対である。しかし日本のなかでは賛成意見も多くあると思われ、そこについては日本産婦人科学会（日産婦）が責任をもってガイドラインを設定するべきと思う。しかし、減数手術が行なわれ、同じように大騒ぎしてそれについては今後も検討すると約束した日産婦は、あれから12年もたつのに少しも態度はかわっていないのである。今度の件もただ根津先生の個人攻撃のみに終始しており、その様子を見るかぎり、先生が提案した件については減数手術と同じ経過をとると予想される。

我々はガイドラインには従うべきである。しかし今の日産婦はその責任を果たしていないといわざるをえない。減数手術が駄目で人工中絶はよいとか、非配偶者間のARTは駄目でAIDはよいとか、だれが考えてもおかしい。この矛盾を学会はきちんと整理し、指針を示すべきである。しかし何がそうさせているのか、まったく進展は見られない。私はAIDその他の非配偶者間のARTには反対である。しかし、国民の多くの意見が賛成であればガイドラインはそれにそっていてもよい。つまりダブル・スタンダードである。行なってよくなっても、私はしたくないからしない。

生殖医療は一面、派手な、センセーショナルな面をもっているが、日常の診療においては99%以上が地味な、他の分野からはマイナーに見られる仕事の積み重ねなのである。不妊の悩みを抱えた患者さんとともに地道に進んでいるのがほとんどの姿なのである。そこに我々は自信と誇りを持ちたいものである。

外来患者及び妊娠結果の内訳(1998. 5.31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院 (1992. 6. 3) ~ 本年 (1998. 5.31) までの外来患者数

7,160 人

男性 1,973 人 (27.6%) (平均年齢 33.8 才)

正常 805 人 (40.8%) 異常 1,168 人 (59.2%)

女性 5,187 人 (72.4%) (平均年齢 32.6 才)

・ 拳児希望の女性 3,505 人 (67.6%) (平均年齢 31.2±4.4 才)

・ 妊娠件数 1,679 件 (平均年齢 30.5±3.9 才)

・ 妊娠に至らなかった女性 2,029 人 (平均年齢 33.1±5.1 才)

2) 妊娠率(患者あたり) 42.1% (3,505-2,029/3,505)

3) 治療を途中で諦めた女性 1,515 人 (43.2%)

(平均年齢 34.1±5.0 才)

4) 実妊娠率(患者あたり) 74.2% (3,505-2,029/3,505-1,515)

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	1,227 例	(73.1%)
流産	337 例	(20.1%)
子宮外妊娠	45 例	(2.7%)
胞状奇胎	7 例	(0.4%)
不明	48 例	(2.8%)
当院で経過観察中	15 例	(0.9%)
計	1,679 例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の 1,227 例中、妊娠結果が判明している 1,022 例について)

1) 妊娠結果

満期産	893 例	(87.4%)
早産	107 例	(10.4%)
過期産	6 例	(0.6%)
死産	7 例	(0.7%)
流産	7 例	(0.7%)
不明	2 例	(0.2%)
計	1,022 例	(100%)

2)多胎妊娠について

単胎	914例	(89.4%)	914児
双胎	101例	(9.9%)	202児
品胎	7例	(0.7%)	21児
計	1,022例	(100%)	1,137児

3)出生児の状態

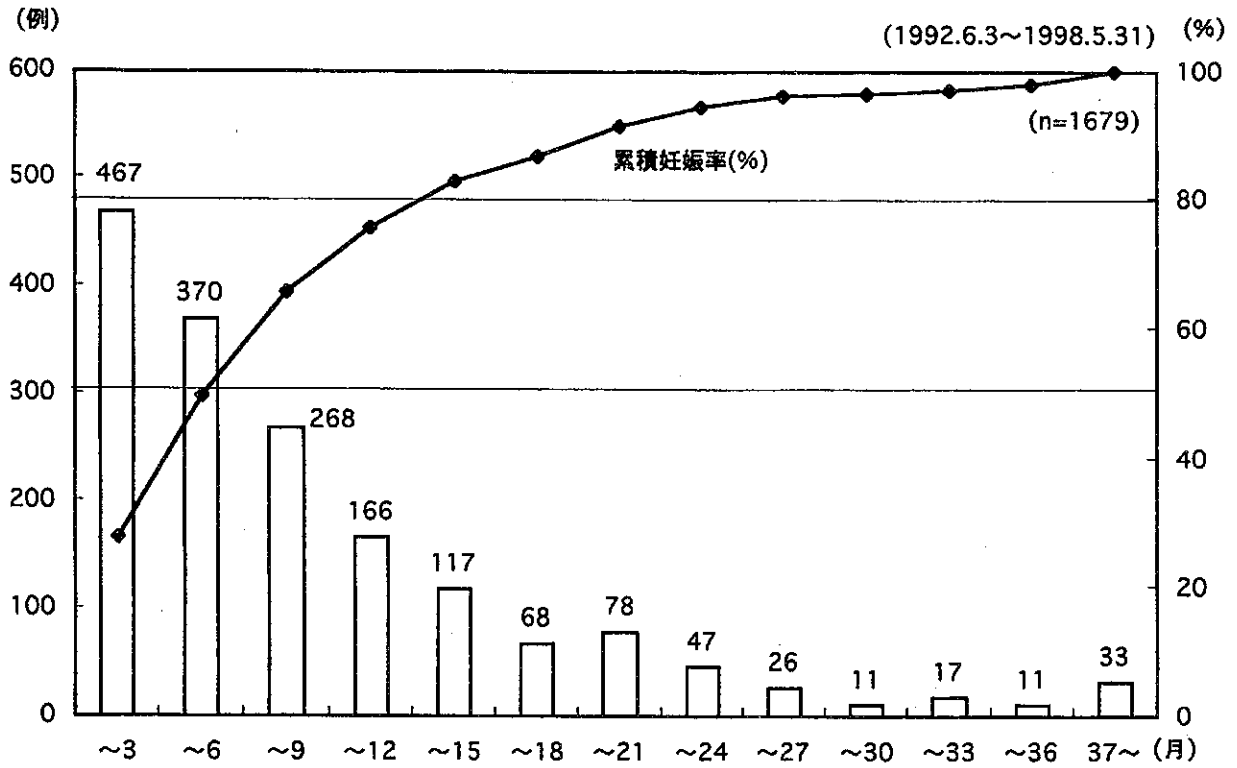
正常	893児	(78.6%)
低体重児	213児	(18.7%)
異常	31児	(2.7%)
計	1,137児	(100%)

4.妊娠に至った主たる有効治療

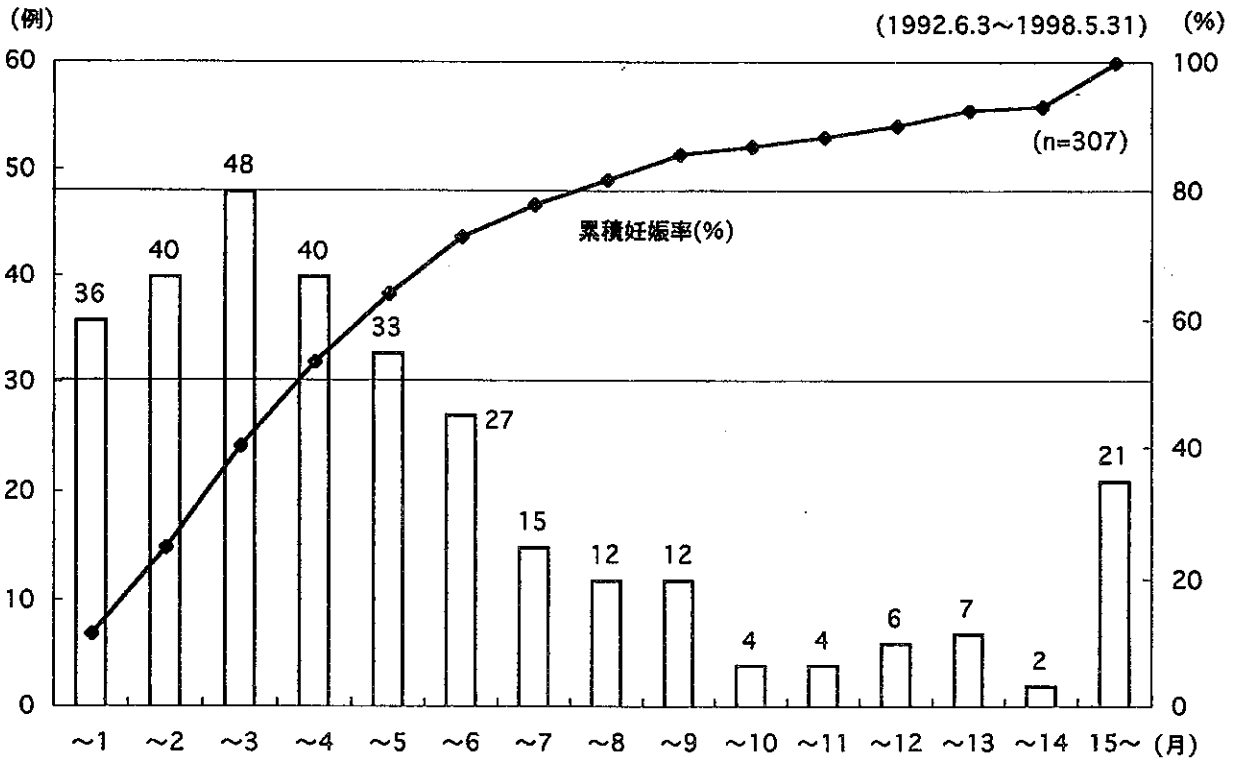
ART(生殖補助技術)全体	476例	(28.3%)
IVF-ET(体外受精)	269例	(16.0%)
MF-ET(顕微授精)	142例	(8.5%)
AHA(人工介助孵化)	(6)例	
CRYO-ET(凍結胚移植)	28例	(1.6%)
GIFT(胚偶子卵管内移植法)	34例	(2.0%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	3例	(0.2%)
AIH(人工授精)	393例	(23.4%)
HMG-HCG	191例	(11.4%)
セロフェン	186例	(11.1%)
ヒューナー	130例	(7.7%)
HSG直後	47例	(2.8%)
HCG	38例	(2.2%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	25例	(1.5%)
リンパ球免疫療法	15例	(0.9%)
パーロデル	11例	(0.7%)
通水	10例	(0.6%)
子宮筋腫核出術後	6例	(0.4%)
LH-RH-TEST時	3例	(0.2%)
タイミング指導	133例	(7.9%)
その他	15例	(0.9%)
計	1,679例	(100%)

(1998/6/24 セント・ルカ産婦人科)

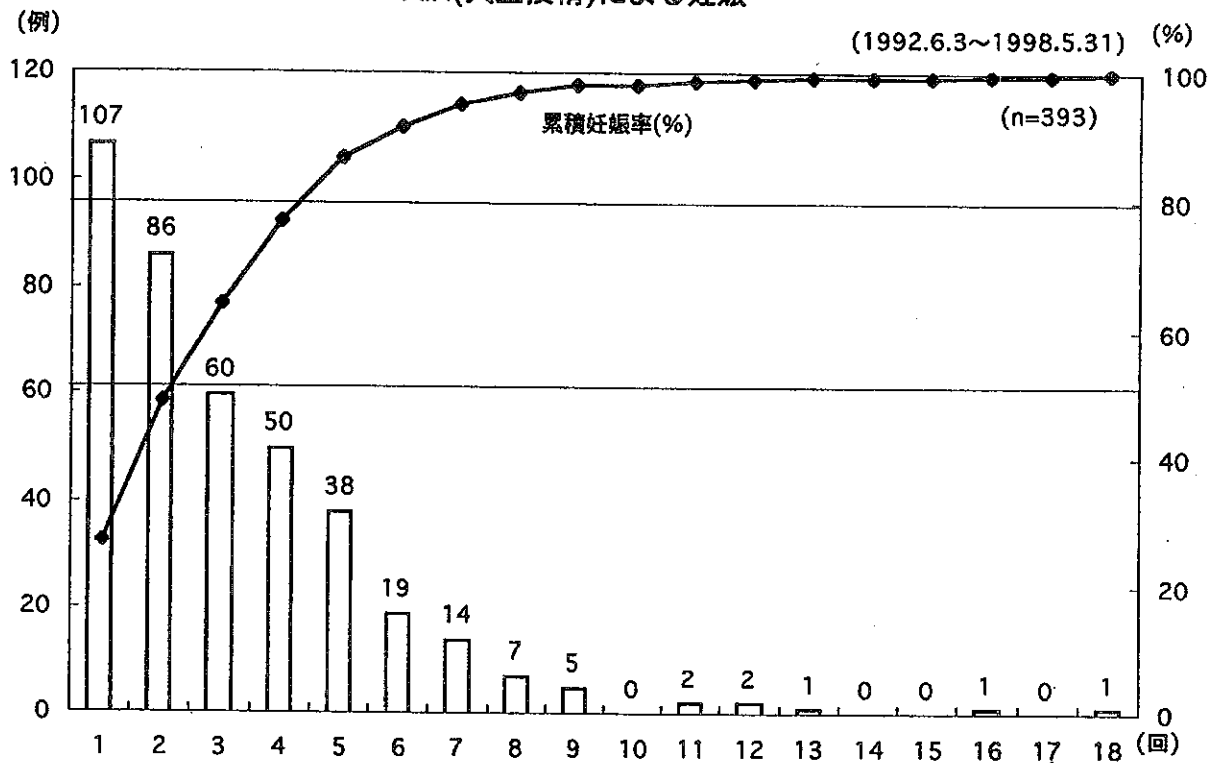
初診後妊娠までの期間



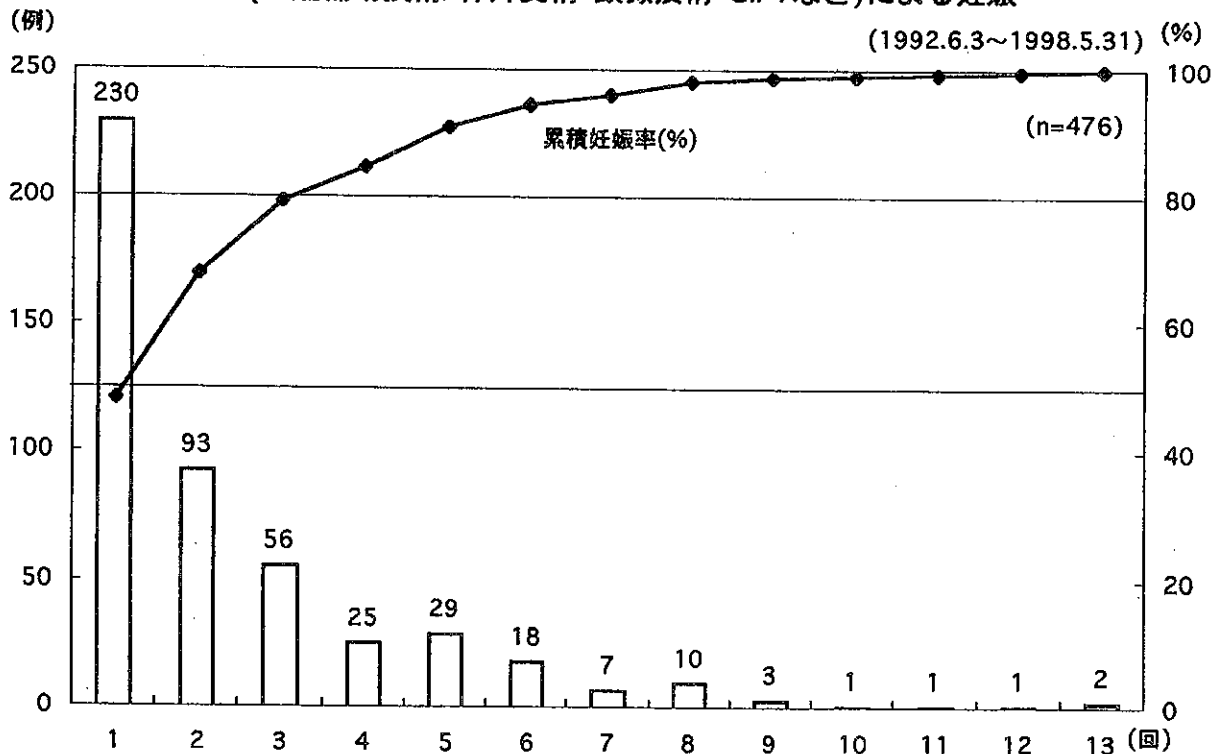
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



AIH(人工授精)による妊娠



ART(生殖補助技術/体外受精・顕微授精・GIFTなど)による妊娠



ARTによる妊娠

(1992.6.3~1998.5.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	1568	1258(80.2)	269(21.4)	71(26.4)
MF-ET	1013	863(85.2)	142(16.5)	46(32.4)
(ICSI)	867	779(89.9)	133(17.1)	42(31.6)
GIFT	122	121(99.2)	34(28.1)	13(38.2)
ZIFT	22	22(100)	3(13.6)	1(33.3)
CRYO-ET	208	205(98.6)	28(13.7)	7(25.0)
ART.total	2933	2469(84.2)	476(19.3)	138(29.0)

ARTによる出産および出生児の状況

(1992.6.3~1998.5.31)

出産周期	246周期			
出産状況	満期産	189周期(76.9%)	流産	4周期(1.6%)
	早産	50周期(20.3%)	死産	1周期(0.4%)
			不明	2周期(0.8%)
出産児数	314児	単胎	183例 (74.4%)	183児 (58.3%)
		双胎	58例 (23.6%)	116児 (36.9%)
		品胎	5例 (2.0%)	15児 (4.8%)
低体重児	115児	(36.6%)		
異常児	16児	(5.1%) (うち、染色体異常などの重症: 2例 0.6%)		

学会発表一覧

年 月 日	演題	学会名	場所
1997. 7. 6	当院の不妊外来成績 (院長)	第 47 回日本産婦人科学会 大分地方部会	別府
1997. 7. 6	精液性状と SQAIB における各種パラメーターの関係について (安東桂三)	第 47 回日本産婦人科学会 大分地方部会	別府
1997. 7. 6	不妊治療における経済的な側面をとらえての検討 (柴田令子)	第 47 回日本産婦人科学会 大分地方部会	別府
1997. 7.24	精液性状と SMI 値の関係および swim-up 前後における SMI 値の関係について (内藤多恵)	第 15 回日本受精着床学会	東京
1997.11. 9	凍結融解胚移植法における胚の Grade と妊娠・非妊娠例との関係について (安東桂三)	第 42 回日本不妊学会 九州支部会	沖縄
1997.11. 9	顕微授精胚の質に影響を及ぼす卵および精子性状についての検討 (長木美幸)	第 42 回日本不妊学会 九州支部会	沖縄
1997.11. 9	The Relationship between Sperm Morphology determined by Strict Criterion and Embryo Quality in Conventional IVF and ICSI patients (Dr. Paul E. Kiheile)	第 42 回日本不妊学会 九州支部会	沖縄
1997.11.13	卵管采の形状と妊娠率について (院長)	第 42 回日本不妊学会総会	東京
1997.11.13	不妊治療における経済的な側面をとらえての検討 (指山実千代)	第 42 回日本不妊学会総会	東京
1997.11.13	精液性状と SQAIB における各種パラメーターの関係について (広津留恵子)	第 42 回日本不妊学会総会	東京
1997.11.13	顕微授精胚の質に影響を及ぼす卵および精子性状についての検討 (長木美幸)	第 42 回日本不妊学会総会	東京
1997.11.20	不妊症患者の「悩み」について-質問紙調査による検討- (渡辺利香)	第 28 回大分市医師会 医学総会	大分
1997.11.20	膨化試験(Hypoosmotic Swelling Test)と精液性状の関係について (高野陽子)	第 28 回大分市医師会 医学総会	大分
1998. 4. 5	当院における Assisted Hatching の臨床成績について (佐藤真紀)	第 9 回日本不妊学会 春季九州支部会	福岡
1998. 4. 5	strict criteria による精子正常形態率と一般精液検査所見および受精率との関係についての検討 (高野陽子)	第 9 回日本不妊学会 春季九州支部会	福岡
1998. 4. 5	不妊症患者の「悩み」について-質問紙調査による検討- (渡辺利香)	第 9 回日本不妊学会 春季九州支部会	福岡

学会発表一覧

年月日	演題	学会名	場所
1998. 5.10	Does the nonpathological form of fimbria correlate to the success of normal pelvis women in pregnancy? (院長)	13th Congress of the European Association of Gynaecologists and Obstetricians	Israel

論文一覧

論文名	掲載誌	
当院における無精子症、無精液症に対する顕微授精成績について (長木美幸)	大分市医師会医学雑誌 (アルメイダ医報)	22(2):35(137),1997
採卵時麻酔チェックリストの使用による検討・体外受精-胚移植 (渡辺利香)	大分市医師会医学雑誌 (アルメイダ医報)	22(2):30(132),1997
多胎妊娠と不妊治療について (院長)	大分県医師会雑誌	15(2):102,1997
膨化試験 (Hypoosmotic Swelling Test:HOST) と精液所見との関係及び凍結融解精子への応用に関する検討 (高野陽子)	日本不妊学会雑誌	43(2):29(103),1998
卵管采の形状と妊娠について (院長)	日本産科婦人科学会雑誌	投稿中(1998.7予定)
不妊症治療の社会的問題 (院長)	日本不妊学会雑誌	投稿中(1998.夏予定)

著書 (共著) 一覧

著書名	掲載誌	
「着床と黄体補充」 (院長)	新女性医学大系	1998

翻訳一覧

書名	出版元	翻訳者
不妊症：対処法と決断 不妊症との上手なつきあい方	American Society for Reproductive Medicine	實崎・院長

主催講演会一覧

年月日	講演名	場所
1997. 8.24	第4回セント・ルカセミナー 講師：鈴木秋悦先生 (WHO ヒト生殖プログラム代表) 講師：品川信良先生 (セミナー「医療と社会」代表)	セント・ルカホール

学会・講演参加一覧

年 月 日	学会・講演名	場所	参加者
1997. 7.12	第 42 回産婦人科情報 処理研究会	諏訪	倉橋・後藤(孝)
1997. 7.18	平成 9 年度第 1 回大分 県立病院がんセンター ミーティング	大分	院長・他多数
1997. 8.29	看護協会研修会 (看護研究Ⅱ)	大分	市野瀬・渡辺(利)
1997. 9. 5	生殖内分泌研究会	福岡	院長
1997. 9.16	2nd International Symposium on Preimplantation Genetics	Chicago	院長・安東・牛島
1997.10.10	第 43 回産婦人科情報 処理研究会	東京	後藤(孝)
1997.10.11	ICSI Workshop in Yonago(II)	米子	院長・安東 Dr.Paul E.Kiheile
1997.10.16	看護婦リフレッシュ 研修会	大分	宿利
1997.10.24	第 6 回大分市医師会 産婦人科不妊内分泌 代謝懇話会	大分	院長・他多数
1998. 2.25	平成 9 年度不妊相談 セミナー	東京	實崎
1998. 3. 7	第 4 回九州院内感染 対策研究会	大分	院長・他多数
1998. 4.16	4 月大分市医師会学術 研修会	大分	院長・他多数
1998. 4. 18	放送大学 (カンパリング 科目履修)	大分	實崎
1998. 4.21	加藤みちこ講演会	大分	職員多数
1998. 4.24	第 7 回大分市医師会 産婦人科不妊内分泌 代謝懇話会	大分	院長・他多数
1998. 5. 8	第 39 回日本哺乳動物 卵子学会	神戸	牛島・高野

学会・講演参加一覧

年 月 日	学会・講演名	場所	参加者
1998. 5. 9	第1回不妊カウンセラー・IVFコーディネーター養成講座	東京	指山・渡辺(利)・實崎

見学・院内講習会参加一覧

年 月 日	見学施設・講習会名	場所	参加者
1997. 7.12	諏訪マタニティクリニック見学	諏訪	院長・事務長 倉橋・後藤(孝)
1997. 7.24	医療ガス保安講習会	大分	指山・磯崎・渡辺(多) 広津留
1997. 9. 3	SRL 八王子ラボラトリー見学1	八王子	牛島・高野
1997.10.12	SRL 八王子ラボラトリー見学2	八王子	院長
1998 .1.19	SRL 八王子ラボラトリー研修	八王子	牛島
1998. 5.14	フジサワ FISH 実技講習会	大阪	牛島
1998. 5.26	統計処理講習会	大分	院長・他多数

講演一覧

年 月 日	講演題	学会名	場所
1997. 6.15	精液所見を中心とした生殖医療について (院長)	大分県検査技師会一般 研究班研究会	大分
1997.11.15	不妊相談の実際-医療機関の立場から (院長)	不妊カウンセリング セミナー97-Tokyo	東京
1997.12. 5	中高年婦人の健康 (院長)	市民健康教室	大分
1998. 1.17	豊かな 21 世紀に向けて —少産少子時代と我々のなすべきこと— (院長)	平成義塾大分	大分

不妊カウンセラー活動一覧

年 月 日	会名	患者さん 参加人数	場所
1998. 2 月	なんでも相談日	総数 11 件	セント・ルカ
1998. 3 月	なんでも相談日	総数 4 件	セント・ルカ
1998. 4 月	なんでも相談日	総数 2 件	セント・ルカ
1998. 5 月	なんでも相談日	総数 1 件	セント・ルカ
1997 年	不妊相談日	総数 70 名 (計 11 回)	セント・ルカホール
1998 年	不妊相談日	総数 15 名 (計 4 回)	セント・ルカホール
1998. 2.14	第 1 回ガーネット・ サークル(ART OG 会)	10 名	セント・ルカ談話室
1998. 5.23	第 2 回ガーネット・ サークル(ART OG 会)	11 名	セント・ルカ談話室

行事一覧

年	月 日	行事
1997	6.15	大分県検査技師会一般研究班研究会にて院長講演、参加（大分）
	7. 6	第 47 回日本産婦人科学会大分地方部会参加、発表（別府）
	7.12	第 42 回産婦人科情報処理研究会参加、 諏訪マタニティークリニック見学（諏訪）
	7.18	平成 9 年度第 1 回大分県立病院がんセンターミーティング参加（大分）
	7.24	第 15 回日本受精着床学会参加、発表（東京）
	7.24	医療ガス保安講習会参加（大分）
	8.23	セント・ルカ産婦人科 5 周年記念祝賀会（別府）
	8.24	第 4 回セント・ルカセミナー開催（セント・ルカホール） ・・・講師 WHO ヒト生殖プログラムアドバイザー 鈴木秋悦先生 ・・・講師 セミナー「医療と社会」代表 品川信良先生
	8.29	第 1 回主任会議開催
	8.29	看護協会研修会（看護研修Ⅱ）参加（大分）
	9. 3	SRL 八王子ラボラトリー見学 1（八王子）
	9. 5	生殖内分泌研究会参加（福岡）
	9.16	2nd International Symposium on Preimplantation Genetics 参加 （Chicago）
	10.10	第 43 回産婦人科情報処理研究会参加（東京）
	10.11	ICSI Workshop in Yonago(II)参加（米子）
	10.12	SRL 八王子ラボラトリー見学 2（八王子）
	10.16	看護婦リフレッシュ研修会参加（大分）
	10.16	第 5 回セント・ルカ産婦人科職員旅行（バリ島）
	10.20	Home Page 開設（ http://www.coara.or.jp/~sentluke ）
	10.24	第 6 回大分市医師会産婦人科不妊内分泌代謝懇話会参加（大分）
	10.28	「生殖医学の臨床実施報告」日産婦へ報告
	10.29	Assisted Hatching による妊娠成立
	11. 9	第 42 回日本不妊学会九州支部会参加、発表（沖縄）
	11.13	第 42 回日本不妊学会総会参加、発表（東京）
	11.15	不妊カウンセリングセミナー97-Tokyo にて院長講演、参加（東京）
	11.20	第 28 回大分市医師会医学総会参加、発表（大分）
	11.21	IVF コーディネーター勉強会開始
	12. 5	「市民健康教室」にて院長講演、参加（大分）
	12.16	第 202 回 Meeting 開催
	12.22	セント・ルカ産婦人科クリスマス会 ・・・別府福音ルーテル教会 三浦芳夫牧師 チャペルノア シッド宣教師

行事一覧

年	月 日	行事
1997	12.22	セント・ルカ産婦人科忘年会（海宴亭）
1998	1. 5	セント・ルカ産婦人科新年会
	1.19	SRL 八王子ラボラトリー研修（八王子）
	1.17	「平成義塾大分」にて院長講演、参加（大分）
	1.24	98年度第1回（累計12回目）「不妊相談日」開催
	2. 6	第1回「なんでも相談日」開催
	2.14	第1回セント・ルカ産婦人科 ART OG 会（ガーネット・サークル）開催
	2.25	平成9年度不妊相談セミナー参加（東京）
	3. 7	第4回九州院内感染対策研究会参加（大分）
	4. 5	第9回日本不妊学会春季九州支部会参加、発表（福岡）
	4.16	4月大分市医師会学術研修会参加（大分）
	4.18	放送大学カウンセリング科目履修開始（大分）
	4.21	加藤みちこ講演会参加（大分）
	4.24	第7回大分市医師会産婦人科不妊内分泌代謝懇話会参加（大分）
	4.27	セント・ルカ生殖医療研究所起工式
	5. 8	第39回日本哺乳動物卵子学会参加（神戸）
	5. 9	第1回不妊カウンセラー・IVF コーディネーター養成講座参加（東京）
	5.10	13th Congress of the European Association of Gynaecologists and Obstetricians 参加、発表（Israel）
	5.14	フジサワ FISH 実技講習会（大阪）
	5.23	第2回セント・ルカ産婦人科 ART OG 会（ガーネット・サークル）開催
	5.26	統計処理講習会（大分）

スタッフ紹介

研究室

Dr. Paul E. kahaile	安東桂三	広津留恵子	長木美幸
佐藤真紀	牛島千秋	高野陽子	

看護婦

指山実千代	磯崎美智子	渡辺多鶴子	倉橋千鶴美	広瀬美代子
柴田令子	市野瀬 恵	渡辺利香	實崎美奈	原井淳子
二宮 睦	斎高美穂	宿利佳子		

受付

佐藤久美	宇津宮富美子
------	--------

情報処理室

後藤孝子	内藤多恵
------	------

厨房

後藤恵美子	首藤清子	宇津宮富美子
-------	------	--------